

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

時代を超えて受け継ぐ「自主・自律・自由」の校風のもと、予測不能な21世紀社会をしなやかにたくましく生き抜く力を育み、多様性を認め、人と人・社会との繋がりを大切に行動する意識を醸成し、それらによってこれからの多文化共生社会をリードし、より良い世界を創ることに貢献できる人間を育成する学校

そのために、すべての教育活動を通じて、以下の力を育む。

1. 幅広い教養を身に付け、主体的に学ぶことができ、自らのキャリアをデザインする力
2. 広い視野と当事者意識を持って社会や世界の課題に向き合い、意見の交換や調整を通して協働して課題を解決する力
3. 多様性を認識し、互いに切磋琢磨し支え合いながら、未知なるものに果敢に挑戦し、新しい価値を創造する力

また、このような教育活動を推進するために、教職員の同僚性を高め、新たな課題に対してもチームで克服できる体制を整え、学校力を向上させる。

2 中期的目標

1 幅広い教養を身に付け、主体的に学ぶことができ、自らのキャリアをデザインする力を育む。

- ア 生徒が自ら課題設定ができ自学自習できるように、主体的な学びの姿勢を引き出して、積極的意欲的に学習に取り組む力を育成する。
- イ 体験的な活動や探究的な学習等を取り入れて、課題を設定し解決する力や、科学的で論理的な見方、考え方、表現力等を育成する。
- ウ 新学習指導要領や高大接続改革など、新たな教育課題に対応できるよう組織的に教員の授業力の向上をめざす。
- エ 三年間を見据えた進路指導計画を更新し、生徒・教職員・保護者間でその内容を共有し、進路指導を充実させる。
- オ 「総合的な探究の時間」をキャリア探究と位置づけ、段階的なキャリア形成を支援し、全ての生徒の進路希望の実現を図る。
- ※ 授業アンケートにおいて、授業に対する生徒の興味・関心の喚起と知識・技能の定着の観点から授業を評価し、継続的な向上を図る。
- ※ 学校教育自己診断において、生徒「授業は自分の学力向上に役立っている」の積極的回答、令和4年度85%以上とし、令和6年度90%前後をめざす。
(令和元年度:88.6%、令和2年度82.4% 令和3年度86.1%)
- ※ 生徒の進路希望の実現を図り、令和6年度に、京大・阪大・神大の現役合格者数30名以上(令和元年度:25名、令和2年度:30名 令和3年度:26名)を含む国公立大現役合格者数130名(令和元年度:102名、令和2年度:109 令和3年度:122名)をめざす。

2 広い視野と当事者意識を持って社会や世界の課題に向き合い、意見の交換や調整を通して協働して課題を解決する力を育む。

- ア 「自主・自律・自由」の精神の本校の伝統を引き継ぎ、Withコロナの時代の新しい生活様式の下で意欲的に活動する力を育む。
- イ さまざまな学校行事や生徒会活動の中で、協力と協働の精神を育み、ともに高めあう力や自主的に活動する力を育成する。
- ウ 生徒会活動・ボランティア活動の活性化を図り、地域や社会との関わりの中で成長させる。
- エ 社会や世界の課題に触れ、それについて仲間とともに解決策を模索し、自分たちの考えを発信する力を育てる。
- ※ 学校教育自己診断において、令和6年度に、生徒「社会や世界の課題に関心を持ち、より良い世界を創ることに貢献しようという思いがある」(新設)の積極的回答を80%以上に。
- ※ プレゼンテーションしたり、ポスターセッションする機会を全学年で持ち、令和6年度までに学年を超えて学び合う機会を設ける。

3 多様性を認識し、互いに切磋琢磨し支え合いながら、未知なるものに果敢に挑戦し、新しい価値を創造する力を育む。

- ア 部活動・生徒会活動・学校行事等において、コミュニケーション力・調整力を養い、良好な人間関係を構築する力を育む。
- イ 人権尊重の意識の向上に努める。また、安全安心な学校づくりを推進し、教育相談委員会による心の支援機能を充実強化する。
- ウ 留学生や姉妹校との交流を含め、国際交流等の多様な機会を設けて、異文化理解を深め、コミュニケーション能力を高める。
- エ ユネスコスクールの取組みを様々な教育活動において発展させる中で、世界の持続発展に貢献できる力を育む。
- ※ 令和6年度までに、1年次の部活動加入率95%以上の維持を図る。(令和元年度:98.8%、令和2年度:95.6% 令和3年度:95.2%)
- ※ 保護者向け学校教育自己診断で、令和6年度までに、生徒の自主・自律・自由を重んじる校風に対する支持率90%以上の水準維持に努める。(令和元年度:93.6%、令和2年度:91.5% 令和3年度:94.1%)

4 教職員の同僚性を高め、新たな課題に対してもチームで克服できる体制を整え、学校力の向上を図る。

- ア 業務の見直し、組織の再編等により、より機能的な体制を作り、時間外勤務時間の縮小をめざす。
- イ 学年・分掌・教科間の連携を密にし、課題の共有や見える化を進め、諸課題に対して組織としてよりスムーズに動ける体制を構築する。
- ウ 諸課題に関して校内研修で学ぶ機会を設け、チームで取り組む体制を整え、組織的・継続的な人材育成を行う。
- ※ 新しい積算方法での時間外勤務の月平均を令和6年度まで、毎年、前年度より減らす。(令和3年度:39時間29分)
- ※ 学校教育自己診断において、教職員の「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に連携している」令和6年度に50%以上をめざす。
(令和元年度:31.0% 令和2年度:46.4% 令和3年度:38.9%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|--|--|
| <p>以下、特に説明の無い数値は肯定的な意見の割合 [単位%] である。()内はR3年度数値。</p> <p>【生徒】本校を選んだ理由として最も高いのが、「自由な校風だから」が39.5(36.9)である。とりわけ1年生では、昨年度より4ポイント増加している。授業については、「自分の学力向上に役立っている。」が88.5(86.6)。進路指導については、「将来について考える機会がある。」が94.7(89.3)であり、総合的な探究の時間を中心としたキャリアデザインの取組みの成果であると考えている。全体的に肯定的な意見等の割合は増加しており、「学校へ行くのが楽しい」は94(89.9)や「充実した藤蔭祭が工夫されている。」96(84.1)などを見ても、コロナ禍の影響も徐々に減少し、行事や部活動の中で充実感が得られているものと考えている。</p> <p>【保護者】「進路指導について」74(71.5)、「進路に関する情報の伝わり方」67.1(62.8)など、昨年度に引き続き増加しており、取組みを充実させていきたい。</p> <p>【その他】教育相談体制については、生徒の「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」が70.5(67.2)、「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」が92.5(91.3)、保護者の「連絡、相談したい場合に、電話や懇談などの場を設定している。」が71.9(64.6)と増加している。一方で、「コロナ禍における対応に関</p> | <p>【第1回】令和4年7月7日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループやペアのワークが苦手な生徒等、生徒の特性に対する配慮の必要の有無については、担当教員が相談できる環境を作ることが大切である。 ・多様性が重視される傾向にあるが、「我が道を行く」ことで、社会に適應できないということの無いよう、協調性も育てるべきである。 ・2年生からの文理分けに対しては1年生の時に考える材料を十分与えてほしい。 <p>【第2回】令和4年11月4日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR教室のプロジェクタの映像が暗いので改善すべきである。 ・プロジェクタは、文章の提示よりも写真や図を多く提示する方が良い。 ・スクールミッションについては、春日丘高校らしいものであるが、今後スクールポリシーを定めるにあたっては、取組みの結果を検証するための評価方法についても念頭に置く必要がある。 <p>【第3回】令和5年2月6日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気軽に相談できる先生の割合を増やすには、SCの活用のほか、例えば定期考査期間に、教科担当者に質問に行くよう呼びかけることで改善されるのではないか。 ・割合は少ないが、学校が楽しくないと感じる生徒は、春高が期待していた姿と違っていることがあるのではないか。教育活動の改善のためには、その点の実態を把 |

府立春日丘高等学校

| | |
|---|---|
| <p>する情報提供」85.9 (91.8)、「保護者と学校との意思疎通」83.2 (87)、「スクールカウンセラーによるカウンセリング等についての認知」51.0 (58.8)は減少しており、情報発信について検討の余地がある。</p> <p>生徒1人1台端末については、「クロームブックは役立っているか」の問いに対して、生徒56.1 (43.1)、保護者では、68 (48.2)と、端末の活用が定着していることが窺える。来年度リーディングGIGAハイスクールの指定を受け、利活用について研究を進めていく中で、更なる向上をめざしたいと考えている。</p> | <p>握することも必要である。</p> <p>・大学では、自分で情報収集して対応する必要がある。そのためにも高校生のころから活字をしっかりと読んで考え方を整理する習慣をつけておくべきである。読書率の目標として示されている数値は妥当かは疑問である。</p> |
|---|---|

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 [R3年度値] | 自己評価 |
|---|--------------------------|---|--|---|
| 1 幅広い教養を身に着け、主体的に学ぶことができ、自らのキャリアをデザインする力を育む | ア 積極的・意欲的に学習に取り組む力の育成 | ア ・力をつける授業を基本に、観点別学習状況の評価を指導に活かし、主体的かつ積極的に学習に取り組む姿勢を育成する。 ・前年度の学びの定着等へも配慮し、学校生活実態調査や模擬試験等の分析会を行い、定着の低い分野等の補強等に活かす。 | ア ・学校教育自己診断「授業は自分の学力向上に役立っている」の積極的的回答85%以上。[86.1%] ・分析会の実施各学期1回。[維持]教科指導へどう活かしたか等を共有し、効果を検証する機会を持つ。[新規] | ア ・88.5% (○) ・6回 (5/17, 7/8, 9/21, 9/28, 12/2, 12/21) (○) 効果検証する場を持つことはできていない。(△) |
| | イ 様々な学習の工夫 | イ ・各教科で探究的な学習に取り組んだり、学ぶことの楽しさを知る機会を設ける。 ・英語四技能を伸ばし、実用的な英語力を育成する取組を行う。 ・学習支援クラウドサービスの活用や1人1台端末の活用をICT活用PT(各教科、各学年1名)を中心に、より取り組みやすい環境を作る。 | イ ・サイエンスレクチャー2回実施。[維持] ・SDGsに関する取組の実施5回以上。[維持] ・1年：グループでのプレゼンテーション1回 2年：スピーチ1回、英語エッセイ集の発行等これまでの取組を維持する。[維持] ・ICT活用PT主催の研修やワークショップを3回実施するとともに、効果的なハイブリッド型授業についても検討する機会を持つ。[新規] | イ ・2回 (6/23, 11/8) (○) ・5回 (○) ・1年：7月に実施 2年：1年次のグループプレゼンテーションを発展させる形で1学期に実施。エッセイ集はパラグラフライティングをグループ活動で実施。(○) ・3回 (9/27, 10/27, 12/8) (○) ・概ね全教科で学習支援クラウドサービスが活用されており、一部実技教科を除き、オンライン配信が行われている。(○) |
| | ウ 授業力の向上 | ウ ・互見授業を実施し、フランクに授業について話し合える機会を設けると同時に、組織的な授業力向上の取組を行う。 ・観点別学習状況の評価について、引き続き検討を続け、授業力向上につなげる。また、評価に係る教務内規も含め、実施しながらよりよいものにしていく。 | ウ ・互見授業 全教員実施。感想シートを活用。 ・観点別学習状況の評価を活かした授業力向上のために各教科で研究授業を実施する。[新規] ・実施しながら教科で検討を重ね、全体での共有の場を設ける。全体研修3回 [維持] | ウ ・令和4年11月14日～令和5年2月9日実施 (○) ・観点別評価の実際の運用を組織的な授業力向上の取組とすることはできなかった。来年度の課題である。(△) ・表計算ソフトを活用し、教科の取組を全体化した。研修は未実施。(△) |
| | エ 進路指導の充実 | エ ・新1年生は、1年次に文理分けを行うので、丁寧な説明と考える機会を工夫する。 ・3年間の進路指導計画をキャリア探究と連動させ、生徒により広い視野で、自身のキャリアについて考えさせる。 | エ ・1年次文理分けに向けてのガイダンスを確立する。[新規] ・キャリア探究と連動させた3年間の進路指導計画の更新 [新期] ・学校教育自己診断の積極的的回答「進路に関する必要な情報を提供」生徒：90%前後 [90.4%] 保護者：「進路指導の適切さ」70%前後 [71.5%] 「情報の伝わり方」60%以上 [62.8%]を維持する。 | エ ・2回 (5/24, 10/13) (○) ・計画を更新し、府教育庁へ提出 (○) ・「進路の情報提供」生徒89.9% (○) 「進路指導の適切さ」保護者74% (○) 「情報の伝わり方」保護者67.1% (◎) |
| | オ キャリア形成支援による進路希望の実現 | オ ・総合的な探究の時間を「キャリア探究」と位置づけ、3年間を見通した計画の元に、自らの将来を切り拓く力をつける。 ・1年次より自分の将来を描くことができるよう、様々な角度から将来について考える機会を設け、生徒の進路希望の実現を図る。 ・生徒のニーズに合う、効果的なサタデーセミナー(サタゼミ)を充実させる。 | オ ・昨年度の進路探究を発展させ、「キャリア探究」として、実践しながらよりよいものにする。[新規] ・学校教育自己診断の積極的的回答 生徒「将来の進路や生き方を考える機会がある。」90%前後 [89.3%] ・京大阪大神大の現役合格者数30名前後 [26名]を含む国公立大への現役合格者数125名以上。[122名] ・キャリア形成支援に関する教職員研修の実施1回。[新規] ・サタゼミの講座内容の充実を図る。参加生徒のアンケートで、肯定的解答70%をめざす。[新規] | オ ・当初計画した内容に、「社会と情報」で取り組んできたプレゼンテーションのスキル向上メニューを追加した。(◎) ・94.7% (◎) ・京大阪大神大の現役合格者数18名、国公立大現役合格104名 (△) ・未実施。(△)5月末までに他の教職員研修と合わせて年間計画を作成する。 ・サタゼミに参加して「学習意欲が向上した」、「興味関心が広がった」(平均87.9%) (◎) |

府立春日丘高等学校

| | | | | |
|--|---|---|--|---|
| <p>2 広い視野と当事者意識を持って社会や世界の課題に向き合い、意見の交換や調整を通じて協同して課題を解決する力を育む</p> | <p>ア 伝統の継承と新しい生活様式の下での意欲的に活動する力</p> <p>イ 学校行事・生徒会活動の中で、高め合う力・自主的に活動する力の育成</p> <p>ウ 地域や社会との関わりの中での成長</p> <p>エ 自分たちの考えを発信する機会</p> | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一昨年体育祭を9月から6月に移したが、まだ一度も実施できていないので、6月体育祭の円滑な実施を行い、藤蔭祭も縮小でしか経験していない生徒たちが充実した取組ができるよう支援する。 ・「自主・自律・自由」の本質を理解し、TPOを意識して行動ができる生徒を育成するための指導の工夫を教職員が協同して進める。遅刻指導においても、担任の声掛けや学年と生徒部との連携を強める。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HR活動の充実を図り、協働して、自主的に活動する力を育成する。 ・選書活動や文集などの従来の取組に加え、生徒が読書に向かう機会を増やす取組を行う。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で中止が続いている地元NPOや中学校との連携の復活や新規開拓で、生徒の活動の機会を増やす。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組みの中で、社会や世界の課題に触れ、仲間とともに考え、自分たちの意見を発信する力を育成する。 | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断で、生徒の藤蔭祭への肯定的回答80%台維持 [84.1%] ・年間遅刻数計1,700回以下 [2,077回] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期1回、クラスで取り組む機会を設ける。[新規] ・学校教育自己診断の「読書率」40%前後 [36.2%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPOや中学校との連携の機会3回以上 [3回] <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」での取組みをクラス・学年で発表するだけでなく、学年を超えて発表する機会を持つ。[新規] | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・96.0% (◎) ・年間遅刻数計 3,119回 (△) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で実施した。(○) ・38.5% (○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールに係る活動において、3団体と3回実施 (○) <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年において実施 (○) ・学年を超えた発表は、2年生が実施 (○) ・「社会や世界の課題に関心を持ち、より良い世界を創ることに貢献しようという思いがある」 (88.1%) |
| <p>3 多様性を認識し、互いに切磋琢磨し支え合いながら、未知なるものに果敢に挑戦し、新しい価値を創造する力を育む</p> | <p>ア 良好な人間関係の構築</p> <p>イ 安全安心な学校づくりの推進</p> <p>ウ 異文化理解</p> <p>エ 世界の持続発展に貢献できる力の育成</p> | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱中症やコロナ禍で完全な形で実施できていない藤蔭祭等の学校行事の実施や部活動を通じて、コミュニケーション力や調整力を身に付け、よりよい人間関係を構築する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が協力して生徒理解を深めるとともに生徒の規範意識や人権意識を醸成する。 ・教育相談体制の一層の強化とケース会議や教育支援の体制の構築。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Withコロナにおける国際交流を工夫し、異文化理解を深める。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールの活動の活性化をはかり、多くの生徒が行動するきっかけを作ったり、SDGsに関係する取組を推進し、学校外との連携や生徒の活動の場を広げ、生徒の成長につなげる。 | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」の積極的回答90%以上。[89.9%] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断で、保護者の「相談対応への満足度」60%後半維持。[65.4%] 生徒の「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる。」45%前後維持。[44.5%] →67.2% ・3年間の人権教育計画を更新する。 ・教職員人権研修を毎年1回計画的に実施する。 ・教育相談委員会で集約した情報の教職員への共有やケース会議等の開催等、より迅速に対応できる体制を作る。学校教育自己診断「体制の整備」教職員の肯定感60%台後半維持 [66.7%] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の機会2回 [新規] ・対面でなくてもできる国際交流を企画し、実施する。[新規] <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科や総合的な探究の時間等で実施する機会を持つと同時に、連動して生徒に取り組みせ、より効果的な実践を行う。[新規] | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・94% (◎) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「相談対応の満足度」保護者71.9% (◎) ・「担任以外に気軽に相談できる」70.5% (◎) ・年度初めに確認済み (○) ・7月と2月に実施 (○) ・60.0% (△) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面で4回実施 (7, 8, 11, 3月実施) ・姉妹校との年賀状の交換 (○) <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについては、2年生で実施。(○) |
| <p>4 教職員の同僚性を高め、新たな課題に対してもチームで克服できる体制を整え、学校力の向上を図る</p> | <p>ア 機能的な体制づくり</p> <p>イ 連携の強化</p> | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分掌や委員会の分担や、担任と担任外の分担を見直し、変化に強い安定した体制を構築する。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会への意見の集約、運営委員会からの周知等を丁寧に行い、連携を強化し、動きやすい環境づくりを行う。また、互いにコミュニケーションをとることを意識し、協同して動ける体制とする。 | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事分担の見直しや、より機能的に動ける体制について検討する校内研修の場を持つ。[新規] <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における教職員の「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に連携している」45%前後をめざす。[38.9%] | <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化のための会議資料の電子化や、学習支援クラウドサービスの活用に関する研修を実施した。新型コロナに係る家庭からの連絡にフォーム作成ツールを活用し、速やかな校内の情報共有につなげた (○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・48% (◎) |